事業事前評価表

国際協力機構東・中央アジア部
中央アジア・コーカサス課

１．案件名（国名）

国名：タジキスタン共和国
案件名：第二次クルガンチュベードゥスティ間道路改修計画
The Project for the Rehabilitation of Kurgan Tyube - Dusti road (Phase-II)

２．事業の背景と必要性

(1) 当該国における道路セクターの開発実績（現状）と課題

タジキスタン共和国（以下「タジキスタン」）は、14.3 万 km^2 の国土に約 710 万人を有し、中央アジアのパミール高原に位置する内陸国である。国内の物流だけでなく周辺国との交易についても道路輸送網が利用されており、幹線道路はタジキスタン経済の主要な機軸となっている。これら道路網の多くは旧ソ連時代に建設されたが、1991 年の独立後の内戦及び経年による損傷・老朽化が進行し、経済活性化の阻害要因となっている。本案件は実施中の「クルガンチュベードゥスティ間道路改修計画」において、物価高騰の影響を受け詳細設計時点で改修対象区間から除外せざるを得なかった 17.9km を対象とする。本事業区間も建設後 30－40 年が経過し、舗装やカルバート・橋梁等の付帯施設等の老朽化が著しく進行しており、早期の改修が必要である。

(2) 当該国における道路セクターの開発政策と本事業の位置づけ

本事業区間が位置する国道 384 号線は、タジキスタンとアフガニスタンの首都を結び、さらにはパキスタンのカラチ港に至る国際幹線道路 11 号の一部であり、アジアンハイウェイ構想の一部を成す。同国の「2025 年までのタジキスタン共和国運輸セクター開発計画」においても、本事業区間は優先的に整備を実施する重要路線として位置づけられており、本事業区間整備はタジキスタンの開発政策に合致する。

(3) 道路セクターに対する我が国及び JICA の援助方針と実績

タジキスタン国別援助計画では運輸・交通は重点分野の１つとされており、我が国は無償資金協力により平成 18 年度及び平成 20 年度「ドゥスティーニジノピャンジ間道路整備計画（I 期及び II 期）」（延長 23.7km・完工済）、平成 20～23 年度「クルガンチュベードゥスティ間道路改修計画」（延長 42.0km）を実施している。

(4) 他の援助機関の対応

ニジノピャンジからアフガニスタン国境にまたがるピャンジ川には米国により橋梁が建設され、首都ドゥシャンベからクルガンチュベまでの 93km は ADB の融資で改修された。今般検討対象区間が完成すればドゥシャンベからアフガニスタン国境までの道路改修が完了することとなる。

３．事業概要

(1) 事業の目的

タジキスタン南部ハトロン州において、クルガンチュベードゥスティ間の道路改修を行うことにより、安定した人員・物流の輸送の確保を図り、もって地域開発、地域格差の是正、市場圏の拡大に寄与する。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名：クルガンチュベを起点に南へ 17.9km
(3) 事業概要
1) 土木工事、調達機器等の内容：道路改修 17.9km
2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：設計・施工監理
(4) 総事業費/概算協力額
総事業費１９．０４億円
（概算協力額（日本側）：１８．８８億円、タジキスタン国側：０．１６億円）
(5) 事業実施スケジュール（協力期間）
２０１１年１１月～２０１３年７月を予定（計２１ヶ月。詳細設計、入札期間を含む）
(6) 事業実施体制（実施機関/カウンターパート）
運輸通信省：これまで我が国の道路関連 2 案件をはじめ、多くの国際機関と事業を実施してきているが、実施上の特段の問題はこれまで発生していない。
(7) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発
1) 環境社会配慮
① カテゴリ分類：B
② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2004 年 4 月制定）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。
③ 環境許認可：本事業に係る環境影響評価（EIA）報告書の作成は義務付けられていない。
④ 汚染対策：重大な影響は想定されないものの、事業開始後、施工中の騒音・粉塵・水質汚濁等については、作業時間の制限・散水・矢板による締切等の対策をとることで、同国の環境基準を満たす見込みである。
⑤ 自然環境面：事業対象地域は国立公園等の影響を受けやすい地域またはその周辺に該当しない。
⑥ 社会環境面：本事業は道路の改修であり、用地取得および住民移転を伴わない。
⑦ その他・モニタリング：本事業は、運輸通信省が、施工中の騒音・粉塵・水質等についてモニタリングする。
2) 貧困削減促進：特になし
3) 社会開発促進（ジェンダーの視点、エイズ等感染症対策、参加型開発、障害者配慮等）：特になし
(8) 他事業、ドナー等との連携・役割分担：連携はなし（他ドナー区間は完工済のため）
(9) その他特記事項： 路肩の付帯による歩行者・自転車と走行車両の分離により、当該道路の安全性が向上する

４．外部条件・リスクコントロール

(1)事業実施のための前提条件：なし
(2)プロジェクト全体計画達成のための外部条件
アフガニスタン国境付近は治安状況に留意する必要はあるものの、現在国内の治安は安定しており、他の国際機関の活動にも問題はないところ、最新の治安情報や交通情報を確認の上、活動することとする。

５．過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1)類似案件の評価結果：過去の類似案件については概ね計画通り効果が発現し交通量も増加している。ただし、想定以上の過積載車両が通行し、舗装の一部損傷が発生した。また過去類似案件では入札不調が重なった。

(2)本事業への教訓：過積載車両取締強化策を先方と確認し、本事業区間通行車両に軸重計を設置することとする。また入札不調の教訓から、最新の物価を積算に反映すると共に、資機材調達ルートは複数調査し積算に反映させた。

６．評価結果

以下の内容により本案件の妥当性は高く、また有効性が見込まれると判断される。

(1) 妥当性：本事業は、タジキスタンの損傷が激しい国際幹線道路の一区間を改修するもので、「2025 年までのタジキスタン共和国運輸セクター開発計画」と整合しており、妥当である。先行案件「ドゥスティーニジノピャンジ間道路整備計画」、「クルガンチュベードゥスティ間道路改修計画」の協力効果発現に必要不可欠である。

(2) 有効性

1) 定量的効果

指標名	基準値（2007 年）	目標値（2016 年）
クルガンチュベ―ドゥスティ間の平均走行速度の向上（km/時）	30	73

2) 定性的効果

道路インフラ改善による、本事業区間における所要時間の短縮、輸送コスト削減、物流・人の移動の増加、交通量の増加。

７．今後の評価計画

(1) 今後の評価に用いる主な指標

6.(2) 1)のとおり。

(2) 今後の評価のタイミング

・事後評価　　事業完成３年後

以　上